

授業科目	運動器疾患・スポーツ傷害身体障害支援学特論演習				
担当者	境 隆弘・佐藤睦美			(オムニバス)	
実務経験者の概要					
学科名	保健医療学研究科	学 年	2年	総単位数	8単位
		開講時期	通年	選択・必修	選択

■ 内 容

運動器疾患・スポーツ傷害に起因する身体障害を対象とする学生が社会へ還元する知識・技能に照らして、身体障害支援学特論（運動器疾患・スポーツ傷害）で修得した知識を実践可能な高度専門知識・技能へと昇華させる。生活機能並びにスポーツ復帰支援を実施するうえでの課題解決のための方法論を文献検索やカンファレンスを通じて演習する。症例研究を批判的に抄読し、疑問点を解決することで、症例を深く追求する推論能力を養う。また、模擬症例を分析し、特論で得た知識を応用するとともに、カンファレンスでその論理を展開する。さらに、臨床・臨地現場から症例を提示し、カンファレンスを開催するとともに、顕在化した問題点を科学的に解決する。

(境 隆弘)

整形外科疾患症例の最新の報告から病態を理解し、実践的臨床推論の知識とするとともに、模擬症例や学生が臨床・臨地現場で経験した症例の検査結果から臨床推論して、生活機能支援の礎となる論理的思考を養う。

運動器疾患の最新の報告から障害像を理解し、展開されるリハビリテーションの科学的根拠を探る。また、運動器疾患シミュレーションの動作解析を演習し、導出された結果を分析する技能を養う。これらの知識、技能および実際に学生が経験した症例の評価結果から科学的根拠あるリハビリテーションを模索する臨床推論能力を培う。

(佐藤睦美)

スポーツ傷害の最新の報告から障害像を理解し、展開されるリハビリテーションの科学的根拠を探る。また、スポーツ傷害シミュレーションの動作解析を演習し、導出された結果を分析する技能を養う。これらの知識、技能および実際に学生が経験した症例の評価結果から科学的根拠あるリハビリテーションを模索する臨床推論能力を培う。

■ 到達目標

- ・実際の症例に対し、運動器疾患・スポーツ傷害のメカニズムを科学的根拠に基づいて説明できる。
- ・実際の症例に対し、根拠あるリハビリテーションを構築できる。
- ・その際、X-p、CT、MRIなどの知識、情報を活用できる。

■ 授業計画

- 第1回 運動器疾患・スポーツ傷害身体障害支援における整形外科領域リハビリテーション学の重要性は何か？ (境隆弘)
- 第2回 最新の整形外科疾患症例研究を批判的に吟味し、論理的に考察する (佐藤睦美)
- 第3回 批判的に吟味し、論理的に考察した最新の整形外科疾患症例研究を発表してその病態を検討する (佐藤睦美)
- 第4回 模擬症例 A の提示：画像、検査評価結果を提示 (境隆弘)
- 第5回 模擬症例 A の詳細分析 (境隆弘)
- 第6回 模擬症例 A の検討会 (境隆弘)
- 第7回 模擬症例 B の提示：画像、検査評価結果を提示 (佐藤睦美)
- 第8回 模擬症例 B の詳細分析 (佐藤睦美)
- 第9回 模擬症例 B の検討会 (佐藤睦美)

- 第10回 学生の臨床・臨地活動における整形外科疾患提示、カンファレンス（境隆弘）
臨床現場からの症例を提示、検討会で病態を科学的に分析する。カンファレンスでの分析は、修士論文につながる着目点が明らかになるように発表する。
- 第11回 学生が提示した症例の着眼点の文献的考察、エビデンステーブルの作成（境隆弘）
※（修士論文選択学生）分析しようとする課題に関連した着眼点
- 第12回 学生の提示症例の着眼点整理、発表（境隆弘）
※（修士論文選択学生）分析しようとする課題に関連した着眼点
- 第13回 運動器疾患による身体障害支援におけるリハビリテーションの重要性は何か？（境隆弘）
- 第14回 最新の運動器疾患症例研究を批判的に吟味し、論理的に考察する（境隆弘）
- 第15回 批判的に吟味し、論理的に考察した最新の運動器疾患症例研究を発表して
その障害解釈と科学的根拠あるリハビリテーションを検討する（境隆弘）
- 第16回 3次元動作解析装置オペレーション技術演習（佐藤睦美）
※彩都スポーツ医科学研究所（彩都キャンパス）
- 第17回 運動器疾患シミュレーションによる動作解析演習（境隆弘）
※彩都スポーツ医科学研究所（彩都キャンパス）
- 第18回
- 第19回 運動器疾患シミュレーションによる動作解析結果の検討会（境隆弘）
※彩都スポーツ医科学研究所（彩都キャンパス）
- 第20回 学生の臨床・臨地活動における運動器疾患症例提示、リハビリテーションカンファレンス（境隆弘）
臨床現場からの症例を提示、検討会で科学的根拠に基づく障害像とリハビリテーション、生活機能支援の分析を実施する。リハビリテーションカンファレンスでの分析、考察は、修士論文、課題研究につながる着目点が明らかになるように発表する。
- 第21回 学生が提示した症例の着眼点の文献的考察、エビデンステーブルの作成（境隆弘）
※（修士論文選択学生）分析しようとする課題に関連した着眼点
※（課題研究選択学生）着目する臨床課題に関連した着眼点
- 第22回 スポーツ傷害による身体障害支援におけるリハビリテーションの重要性は何か？（佐藤睦美）
- 第23回 最新のスポーツ傷害症例研究を批判的に吟味し、論理的に考察する（佐藤睦美）
- 第24回 批判的に吟味し、論理的に考察した最新のスポーツ傷害症例研究を発表して
その障害解釈と科学的根拠あるリハビリテーションを検討する（佐藤睦美）
- 第25回 スポーツ動作シミュレーションによる動作解析演習（佐藤睦美）
※彩都スポーツ医科学研究所（彩都キャンパス）
- 第26回
- 第27回 スポーツ動作シミュレーションによる動作解析結果の検討会（佐藤睦美）
※彩都スポーツ医科学研究所（彩都キャンパス）
- 第28回 学生の臨床・臨地活動におけるスポーツ傷害症例提示、リハビリテーションカンファレンス（佐藤睦美）
臨床現場からの症例を提示、検討会で科学的根拠に基づく障害像とリハビリテーション、生活機能支援の分析を実施する。リハビリテーションカンファレンスでの分析、考察は、修士論文、課題研究につながる着目点が明らかになるように発表する。
- 第29回 学生が提示した症例の着眼点の文献的考察、エビデンステーブルの作成（佐藤睦美）
※（修士論文選択学生）分析しようとする課題に関連した着眼点
※（課題研究選択学生）着目する臨床課題に関連した着眼点
- 第30回 学生の提示症例の着眼点整理、発表（佐藤睦美）
※（修士論文選択学生）分析しようとする課題に関連した着眼点
※（課題研究選択学生）着目する臨床課題に関連した着眼点

■ 評価方法

学生が提示した症例のカンファレンス内容の科学的分析内容 50% (境:第11、12、20、21回演習 佐藤:第29,30回演習)

※各教員50点満点で採点し、その平均

学生が提示した症例のエビデンステーブルの内容 50%

※各教員50点満点で採点し、その平均

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

症例検討のための準備を周到に行うこと

■ 教科書

■ 参考図書

書名:適宜紹介する。

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって